

保育現場における紙芝居の活用状況

鬢 櫛 久美子
野 崎 真 琴

1. はじめに

これまで「保育のなかの紙芝居」と題して紙芝居と保育とのかかわりに関して歴史的研究を進めてきた¹⁾。その中で、紙芝居は、現在のスタイルの紙芝居が成立(1930年)して間もなく、倉橋惣三や副島ハマなどの保育界の重鎮によって保育の中に取り入れられ、教材・教具として活用されるようになったことが明らかになった²⁾。

また、紙芝居は第2次世界大戦中には国策紙芝居として、子どもだけでなく大人向けのメディアとして活用され、戦後も一時期大流行を博したが、テレビなどの普及により次第に人々の前から消え、小学校以上の教育の中ではほとんど用いられなくなったことも把握された。

ところが、現代でも保育現場においては、紙芝居は活用され続けている。このことは、保育における紙芝居活用の効果あるいは意義が、保育現場において認められていることを示唆している。しかし、保育現場で紙芝居が実際にどのように活用されているかに関する調査や研究はこれまで行われていない。

そこで本研究では、幼稚園及び保育所を対象としたアンケート調査を基に、保育現場における紙芝居の活用状況の実態について明らかにすることを目的とする。日々の保育において紙芝居は実際にどのように活用されているのかを、より明瞭なものとするために、紙芝居と同様に日頃保育で活用されている絵本との比較の視点をもち研究を進めた。

従来、保育における絵本に関する研究はある程度なされているものの、保育と紙芝居の関係についてはほとんどなされていない。今回の調査研究で、保育現場における紙芝居の活用状況の実態を把握し、今後保育における紙芝居の教材・教具としての意義を検討し、よりよい活用を目指すための端緒としたいと考える。

2. 調査概要

(1) 調査対象

愛知県下の幼稚園90園、保育所132園、計222園を対象に調査票を郵送し、回答のあった幼稚園、保育所、計148園を対象とした。(回収率66.7%)

(2) 調査方法

一施設において、そこで保育者として勤務する一名に回答してもらう形をとった。回答者については、役職の有無等、特にその属性に条件を設けず、施設ごとで自由に判断し選出してもらった。

(3) 調査期間

2010年4月下旬～5月上旬

(4) 調査内容

保育現場における紙芝居の活用状況に関して、具体的には以下の内容について調査を行った。

各園において、紙芝居はどのくらいの頻度で演じられており、1回に演じる時間はどのくらいであるか。それらは絵本と比較するとどうであるか。また紙芝居は、保育時間中のどのような時間に演じられているか。

次に、紙芝居の種類としてはどのようなものが好まれて演じられているのか。どのような目的で活用されているのか。

また、どのくらいの人数を対象に、演じているのか。その点絵本とどう違うか。

さらに紙芝居は、絵本と違い舞台を用いて演じることによってその真価を発揮する特性があるが、保育現場で舞台は活用されているのだろうか。その他、紙芝居を演じる際に保育者はどのようなことに気をつけているのか。

紙芝居は絵本と比較した場合、出版数も限られている。各園はどのくらいの量を保有し、また、毎年どのくらいの数の紙芝居を購入し補充してい

るのか。具体的なアンケート項目については、文末に資料として添付したアンケート用紙のとおりである。

3. 結果

(1) 紙芝居の活用頻度及び絵本のそれとの比較 (表1、図1)

紙芝居の活用頻度について調査する為に、一保育者として1週間で約何回使用するかについて質問したところ、3回以上4回未満が最も多く42園。5回未満の回数を答えている園が74.4%と、7割以上を占めている。一方絵本については、5回以上6回未満が最も多く45園。紙芝居と対比させて見ると、5回未満の回数を答えた園は全体の37.3%、5回以上が62.7%と半数以上になっている。多くの園で、絵本は毎日活用されているのに対して、紙芝居はそこまで活用されていないこと

が窺える。また10回以上の回数を答えている園は、紙芝居では7園で4.9%、絵本では29園で20.4%となっており、以上のことから、絵本の方が紙芝居より活用頻度が高いといえる。

このことには、紙芝居よりも絵本の方が手軽に扱えるということがあるのではなかろうか。そして手軽さは親しみやすさとも関係しているのではないだろうか。多くの人は紙芝居よりも絵本に幼い頃から日常的に触れてきており、それゆえに親しみを感じる傾向があるのではないかと思われる。活用する側の保育者自身が、紙芝居よりも絵本に親しみを感じているゆえの結果であると考えられはしないか。この点に関しては、実際に調査する必要がある。また、紙芝居に比べて絵本の活用頻度が高いのは後に述べる保育者数との関連もあるのではないだろうか。

表1 紙芝居・絵本を1週間に活用する回数

回数	0以上 1未満	1以上 2未満	2以上 3未満	3以上 4未満	4以上 5未満	5以上 6未満	6以上 7未満	7以上 8未満	8以上 9未満	9以上 10未満	10以上 11未満	11以上 20未満	20以上
紙芝居	9	25	22	42	7	20	6	3	2	0	7	0	0
絵本	2	9	14	12	16	45	12	3			15	9	5

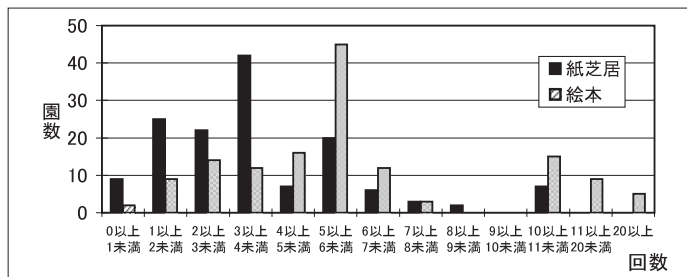


図1 紙芝居・絵本を1週間に活用する回数

表2 1回に紙芝居を演じる時間と絵本を読み聞かせる時間

時間(分)	0以上 5未満	5以上 10未満	10以上 15未満	15以上 20未満	20以上 25未満	25以上 30未満	30以上 40未満	40以上 50未満	50以上
紙芝居	9	66	50	16	4	1	1	0	0
絵本	13	65	50	13	4	0	0	1	0

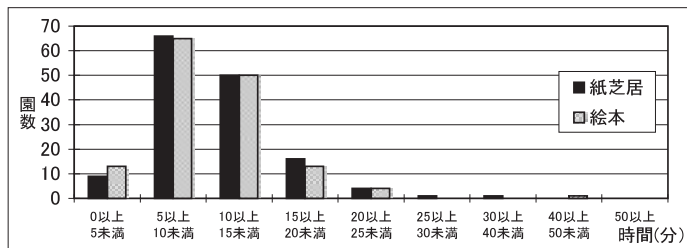


図2 1回に紙芝居を演じる時間と絵本を読み聞かせる時間

(2) 紙芝居を1回に演じる時間及び絵本のそれとの比較 (表2、図2)

紙芝居、絵本をそれぞれ1回に演じる、読み聞かせる時間については、両者共に最も多かった数値は10分であり、それぞれ回答した全園数の32.0%、30.1%を占めていた。さらに5分以上15分未満の範囲内に、紙芝居78.9%、絵本78.8%と8割近くの園が含まれる。1回に演じる、読み聞かせる時間については、紙芝居も絵本も同様の傾向があるといえる。

(3) 紙芝居を活用する時間 (表3、図3)

紙芝居をどのような時間に演じるかについては、「お帰りの時間」が一番多いと回答している園が98園で66.2%と半数以上を占めている。保護者のお迎えや、園バスへの乗車を待つ時間に活用されていることが予測される。2番目に多い時間として答えているのも「お帰りの時間」が最多である。子どもを集中させたり、場つなぎとして使われることが多いのではなかろうか。

表3 紙芝居を活用する時間 (複数ある場合は多い順に回答)

活用する時間	主活動	朝の時間	昼食	お帰りの時間	その他
1番目	6	25	13	98	7
2番目	27	20	25	36	13
3番目	28	17	15	4	7
4番目	14	15	17	1	1
5番目	10	2	2	0	4

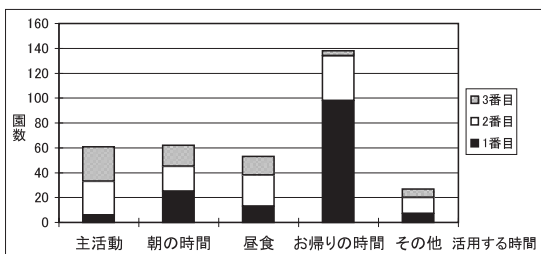


図3 紙芝居を活用する時間

(4) 活用する紙芝居の内容 (表4、図4)

どのような紙芝居が好んで活用されているのかを調査した。保育の場で活用される紙芝居を内容から、「物語」、「教育的なもの」、「宗教的なもの」の3つに分け、これらのうちどれが活用されるこ

とが多いのか質問した。「物語」が一番多いとしている園が圧倒的に多く132園で89.2%である。続いて「教育的なもの」を活用しているケースが多い。また、「宗教的なもの」は1番目や2番目に活用するものとして選んでいる園はかなり少なく、「物語」や「教育的なもの」ほど活用されていないことが分かった。宗教的教義を教育方針に色濃く反映させている園以外の園においては、日常的に扱うというより、クリスマスのような行事の際など何らかの特別な場面で扱われるということではないだろう。

表4 活用する紙芝居の内容 (複数ある場合は多い順に回答)

紙芝居の内容	物語	教育的なもの	宗教的なもの
1番目に多い	132	16	10
2番目に多い	14	109	7
3番目に多い	0	6	49

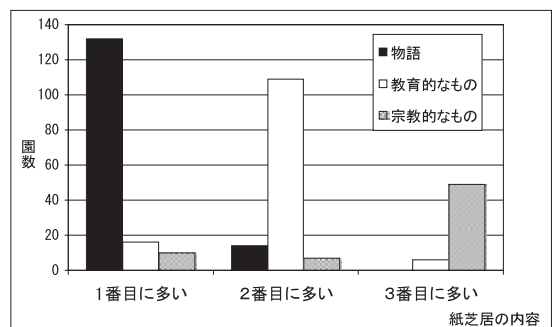


図4 活用する紙芝居の内容

(5) 活用する紙芝居の形式 (表5、図5)

紙芝居は形式という視点から、物語完結型と観客参加型に分類することができる。そこで、「物語型」、「参加型」どちらの形式の紙芝居がよく使われるのかを調査した。複数回答で、使用頻度の高いものから順位をつけて答えてもらった。1番目としては、「物語型」が圧倒的に多く137園であった。「参加型」の活用もしているようで、2番目に102園が使用していると答えている。

表5 活用する紙芝居の形式 (複数ある場合は多い順に回答)

紙芝居の内容	物語型	参加型
1番目に多い	137	9
2番目に多い	8	102

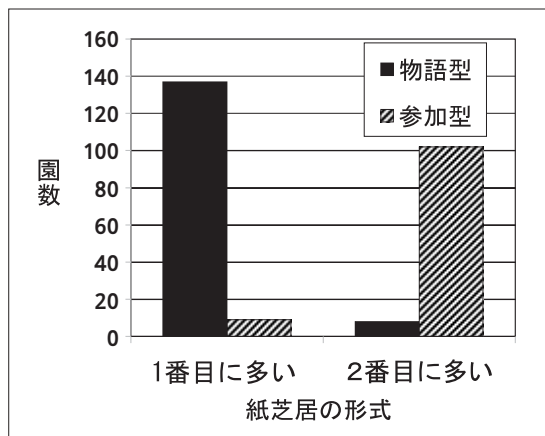


図5 活用する紙芝居の形式

(6) 紙芝居活用の目的 (表6、図6)

紙芝居はどのような目的で使われているのかを調べた。紙芝居の活用目的はいろいろあると考えられるが、「紙芝居そのものを楽しむ」ために活用する場合、活動を始める前に「子どもの注意をひくため」に用いる場合、「ねらいを達成するための

教材」の3つにわけるとしたら、どの目的での使用が多いか、多い順に答えてもらった。

紙芝居活用の目的については、「紙芝居そのものを楽しむ」ことを目的として活用することが最も多いとしている園が123園で83.7%と圧倒的に多い。先に取り上げた活用されている紙芝居の内容や形式についての調査の結果と一致する回答が得られた。目的として2番目に多いものとしてあげられているのが、「ねらいを達成するための教材として」である。戦時下における紙芝居活用の議論を検討したときに、松永健也など教育教材として紙芝居がいかに有効なものであるかを述べていた資料³⁾に出会ったが、確かに現代でも、紙芝居の教材・教具としての価値は認められているようである。どのようなねらいを達成するために用いるかということも、興味深い関心事であるが、今回の調査では分析できない。紙芝居の種類は絵本ほど多くないため、活用する目的においても制約があると思われる。

表6 紙芝居活用の目的 (複数ある場合は多い順に回答)

活用の目的	子どもの注意をひくため	紙芝居そのものを楽しむ	ねらいを達成するための教材として
1番目に多い	11	123	13
2番目に多い	44	20	62
3番目に多い	48	2	37

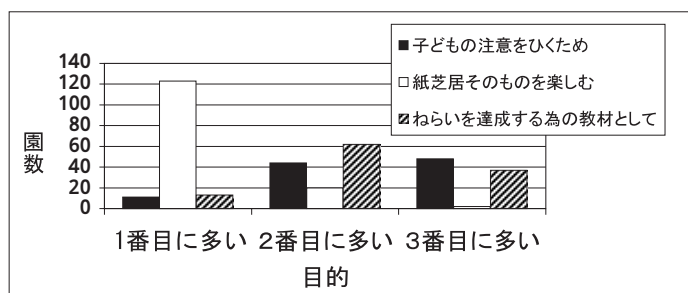


図6 紙芝居活用の目的

(7) 紙芝居を使用する際に対象とする子どもの人数の規模 (表7、図7、表8、図8)

紙芝居は、どのくらいの子どもの数を対象として使用されているのだろうか、それは、絵本の場合と違いがあるのだろうか。使用する際に対象

とする子どもの数の範囲及び絵本を使用する際のそれと比較してみた。一番多い回答は、紙芝居、絵本ともに「クラス単位」であり、紙芝居では134園で90.5%、絵本では126園で85.1%となっている。これは、幼稚園や保育所が何事もクラス単位

で活動することが多いからであり、紙芝居の実演や絵本の読み聞かせに、限ったことではないかもしれない。他の「興味ある子を対象に」「学年全体で」「園児全員に対して」に比べて圧倒的に多い。

対象範囲として一番多いものと、二番目に多いものを合わせて、紙芝居と絵本とを比較してみると(図7、図8参照)、紙芝居はクラスより大きい範囲である「学年全体」や「園児全員」が、絵本の場合よりも多くなっている傾向が窺える。また「興味ある子を対象に」しているケースは、紙芝居より絵本の方が多いう傾向にあることがわかる。紙芝居は絵本に比べて、大勢の人数を対象とする場合に都合が良いと考えられているようである。ことに、「興味ある子を対象に」のような、おそらく少人数を対象とする場合には、紙芝居よりも絵本の方が活用しやすい、と考えられていることが推測される。しかし、クラスの規模、学年の規模、園の規模は、それぞれの園により違いがある。どのくらいの人数を対象にしているかに関しては、人数そのものを問う必要がある。また、紙芝居と絵本を使い分けているのは、単に人数の違いなのか、保育の内容の違いなどにより対象とする子どもの単位が違った等、その他の要因があるかもしれないが、今回の調査では、その点を明らかにすることはできない。

表7 紙芝居使用の際に対象とする子どもの範囲
(複数ある場合は多い順に回答)

子どもの範囲	クラス全員	興味ある子	学年全体	園児全員
1番目に多い	134	6	4	4
2番目に多い	10	42	46	14
3番目に多い	1	20	19	17
4番目に多い	1	9	1	17

表8 絵本使用の際に対象とする子どもの範囲
(複数ある場合は多い順に回答)

子どもの範囲	クラス全員	興味ある子	学年全体	園児全員
1番目に多い	126	17	2	1
2番目に多い	17	70	27	7
3番目に多い	1	23	30	10
4番目に多い	1	4	2	28

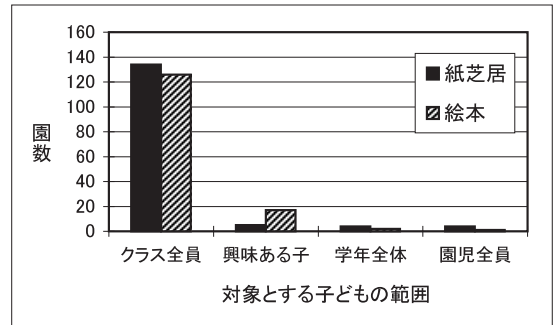


図7 紙芝居・絵本使用の際に対象とする子どもの範囲
(1番目に多い)

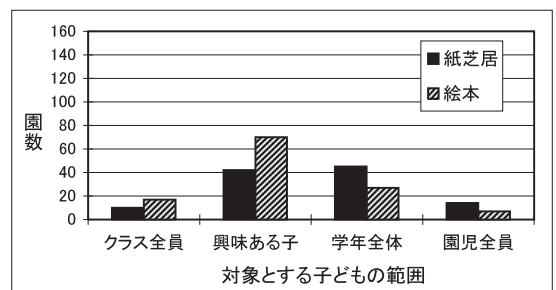


図8 紙芝居・絵本使用の際に対象とする子どもの範囲
(2番目に多い)

(8) 紙芝居、絵本を演じる際に気をつけること
(表9、図9、表10、図10)

紙芝居は、現代のOA機器の様な視覚教材に比べると、電気も装置も要らない手軽に使用できるという特性をもっている。しかし、舞台を用いて演じることで、文字通り「舞台の中での芝居」となる。そこで、紙芝居を演じる際の舞台の使用について聞いてみたところ、「いつも使用する」園はわずか10園で6.8%であった。一方、「使用しない」園は70園で47.3%、これに「ほとんど使用しない」(47園)を合わせると79.1%である。舞台を持っている園が少ない、あるいは園に1~2台と舞台の保有数が少ないなどの事情が、あまり使用されない背景にあるのかもしれない。舞台を用いることで、紙芝居の抜き方にさらにバリエーションがもたらされ、絵本にない紙芝居の特性が出せるのであるが、舞台の使用は残念ながら少ないようだ。

舞台以外の点に関しては、紙芝居を演じるにあたって様々注意を払っていることがわかった。

保育現場における紙芝居の活用状況

「声の出し方」は132園で89.2%。「抜き方」は97園で65.5%。「下読み」は71園で48.0%。このように保育者の意識として注意を払っていることは今回の調査により把握できた。「抜き方」以外は絵本を読み聞かせる際にも注意をすべき点である。紙芝居を演じるために注意を払っているとはいえ、紙芝居の特性やそれに基づく扱い方についてどこ

まで理解されているかについて疑問が残るところである。また、注意する点の「その他」として、「子どもの反応を見ながら」「紙芝居と子どもとの位置」等も挙げられていた。目の前の観客との応答は、紙芝居を楽しむための重要なポイントである。多くの保育者に、子どもの反応を意識してほしいものである。

表9 紙芝居を演じる際の舞台の使用

舞台使用	いつも使用	時々使用	ほとんど使用しない	使用しない
園数	10	22	47	70

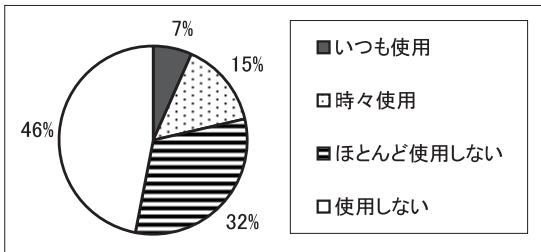


図9 紙芝居を演じる際の舞台の使用

表10 紙芝居を演じる際に注意すること（複数回答）

注意点	声の出し方	抜き方	下読み	その他
園数	132	97	71	29

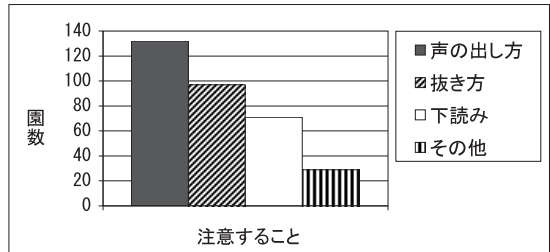


図10 紙芝居を演じる際に注意すること（複数回答）

(9) 紙芝居と絵本の保有数及び購入数（表11、図11、表12、図12）

1園あたりの紙芝居及び絵本の保有数については図11・図12の通りである。0から1000冊未満までは100冊単位毎で区切り、絵本に関しては1000冊以上は500冊単位で区切り、2000冊以上はそれで一括りとした。紙芝居は最小40～最大1200冊、絵本は最小50～最大20000冊と園の間でのばらつきは大きい。平均数を見ていくと紙芝居は319冊、絵本は1295冊で圧倒的に絵本の方が1園あたりの保有数は多い。年間の購入数も同様の傾向であった。紙芝居と絵本の保有数の違いは、結果(1)の活用頻度の違いにも影響しているといえ

るだろう。

予算化については、紙芝居を予算化して購入していると答えている園は26.4%であるのに対して、絵本を予算化して購入していると答えている園は48.0%であり、絵本に比べて紙芝居を予算化している園は少ないようである。紙芝居の年間出版数が、50部程度で、絵本の出版数に遠く及ばないことも、このような結果となる原因と考えられる。紙芝居活用が盛んになり、そして購入する園が多くなれば、出版数も増え紙芝居購入数、金額なども絵本に少し近づくのではないかと予測される。

表11 園における紙芝居の保有数

保有数(冊)	0以上100未満	100以上200未満	200以上300未満	300以上400未満	400以上500未満	500以上600未満	600以上700未満	700以上800未満	800以上900未満	900以上1000未満	1000以上
園数	13	24	26	19	14	15	6	2	2	0	4

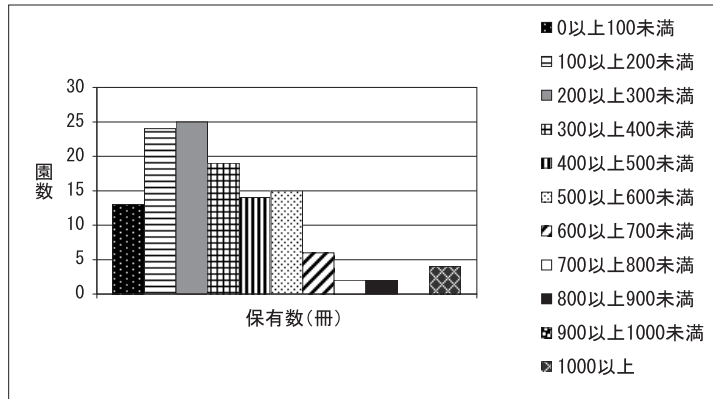


図11 園における紙芝居の保有数

表12 園における絵本の保有数

保有数(冊)	0以上100未満	100以上200未満	200以上300未満	300以上400未満	400以上500未満	500以上600未満	600以上700未満	700以上800未満	800以上900未満	900以上1000未満	1000以上1500未満	1500以上2000未満	2000以上
園数	5	8	11	7	3	12	6	6	9	2	18	5	26

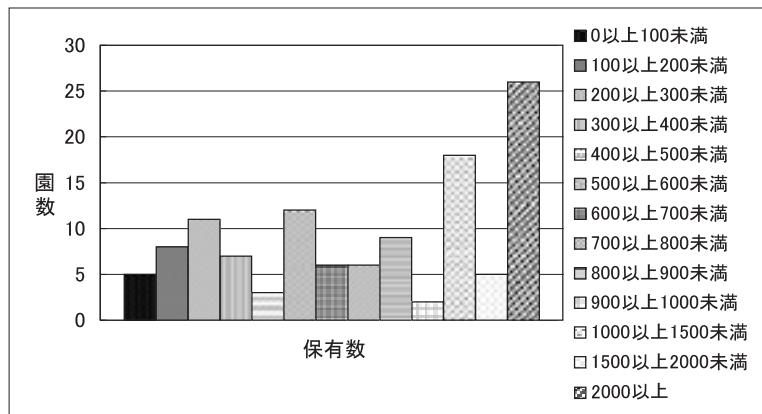


図12 園における絵本の保有数

4. おわりに

本調査研究は、保育現場における紙芝居の活用状況の実態を把握することを目的として行った。保育の場における、紙芝居活用の事実をありのままに調査分析することが、紙芝居の特性を生かしたよりよい活用を考察していくため、すなわち、紙芝居の教材・教具としての意義を検討するための第一段階として必要であり、有効な方法と考えたからである。

予測通り、紙芝居が現在ほとんどの幼稚園及び保育所で活用されていること、絵本との比較では、概して紙芝居より絵本の方が活用頻度は高い

ことが明らかとなった。またそのことが両者の保有数や購入数、予算化の有無の違いに関係していると考えられる。

紙芝居の舞台の活用が少ないことや、紙芝居を演じるにあたって注意していることの調査からは、紙芝居の特性を十分捉えた活用になっていないという結論に至った。保育の場において紙芝居を教材・教具として、よりよく活用するためには、現任の保育者に対して紙芝居の特性を認識するための機会、また有効な活用方法、演じるだけでなく、作る、遊ぶなどについてトレーニングする機会を設ける必要があると考える。実際に、本学で

はフォーラムを過去3年間実施したが⁴⁾、保育者に好評であった。同様の企画をしていく必要性も感じる。

また、保育者養成課程において紙芝居について学習することができるような機会をつくっていくこと、カリキュラムなども考案していくことが重要であると考え。その際、紙芝居の知識面と、技術面双方からの視点で検討するべきではないだろうか。

最後に、今回絵本との比較の視点をもち調査を実施したが、保育の場では紙芝居と絵本に関して、児童文化的視点から見た違いなどをそれほど意識せずに活用しているという前提の下で調査をしたが、事実は果たしてそうなのか調査し分析することが必要である。また、今回の調査は、愛知県下の園について実施したため、全国的規模での地域差などについては論じることができない。箕面紙芝居祭など、紙芝居コンテストなどを長年にわたり実施している地域では、今回の結果とは異なる結果が出るかもしれない。

今回の調査結果を基に、紙芝居の活用実態についてより詳細な調査研究を進めるとともに、保育者養成課程にある学生への調査を行うことで、学生たちの紙芝居についての認識の程度と、養成課程での紙芝居の学習の機会についても検討していきたいと考える。

〔注〕

- 1) 鬢櫛久美子、種市淳子「保育におけるメディアとしての紙芝居－紙芝居通史を中心に－」『名古屋柳城短期大学研究紀要』No.27 2005 PP.53-67
- 2) 鬢櫛久美子、種市淳子「保育の中の紙芝居－倉橋惣三と『紙芝居』の関わりを中心に－」『名古屋柳城短期大学研究紀要』No.28 2006 PP.95-105
- 3) 「学校紙芝居の現状と将来を語る：座談会」『紙芝居』Vol.6, No.3, 1943 PP.2-13.
- 4) ・名古屋2006年度柳城短期大学フォーラム「紙芝居の魅力と演じ方」
・名古屋2007年度柳城短期大学フォーラム「手づくり紙芝居の作り方」
・名古屋2007年度柳城短期大学フォーラム「紙芝居を使ってあそぼう」

参考文献

- 1 今井よね編『紙芝居の実際』キリスト教出版社 1934年
- 2 上地ちづ子『紙芝居の歴史』久山社 1997年
- 3 鈴木常勝『メディアとしての紙芝居』久山社 2005年

資料

保育実践における紙芝居の活用に関するアンケート

ご回答される方につきまして、次の項目ごとに、該当するものに○印を付け、() 内には数字等をご記入下さい。

- ①職名； 園長・所長 / 主任 / 教諭・保育士 / その他 ()
 ②担当クラス； () 歳児
 ③性別； 女性 / 男性

1. 日頃の紙芝居と絵本の活用状況について、以下の問いにお答え下さい。

- ① あなたは紙芝居を1週間で何回位活用しますか。(約 回)
 ② あなたは紙芝居を1日で何回位活用しますか。(約 回)
 ③ 一回の演じる時間はどのくらいですか。(約 分)
 ④ あなたは絵本を1週間で何回位活用しますか。(約 回)
 ⑤ あなたは絵本を1日で何回位活用しますか。(約 回)
 ⑥ 一回の読み聞かせ時間はどのくらいですか。(約 分)
 ⑦ あなたは紙芝居を1日のうちどんな時間に活用することが多いですか。下の㉑～㉓のうち該当するものを多い順に記号でご記入ください。
 ()
 ㉑主活動、㉒朝の時間、㉓昼(お弁当の時間)、㉔お帰りの時間、㉕その他 ()

2. 活用する紙芝居の種類について、以下の問いにお答え下さい。

- ① あなたはどんな内容の紙芝居を活用しますか。次の㉖～㉘のうち該当するものを多い順に記号でご記入ください。()
 ㉖ 物語(昔話、…)
 ㉗ 教育的なもの(歯磨き教育、手洗い教育、…)
 ㉘ 宗教的なもの(福音紙芝居など)
 ② どんな形式の紙芝居をよく活用しますか。次の㉙～㉚のうち該当するものを多い順に記号でご記入下さい。()
 ㉙ 物語型
 ㉚ 参加型(クイズ、なぞなぞ、…)

3. あなたはどんな目的で紙芝居を活用しますか。次の㉛～㉝のうち該当するものを多い順に記号でご記入下さい。()

- ㉛ 子どもの注意をひくため
 ㉜ 紙芝居そのものを楽しむ
 ㉝ ねらいを達成するための教材として

4. 紙芝居や絵本を使用する際に対象とする子どもの数についてお答え下さい。

- ① 紙芝居を使用する場合一度に対象とする子どもは、どの範囲ですか。次の㉞～㉟のうち該当するものを多い順にご記入下さい。()
 またカッコ内にはおおよその人数もご記入下さい。

保育現場における紙芝居の活用状況

- (ア) クラス全員で（約 ）人
- (イ) 興味のある子を対象に
- (ウ) 学年全体で（約 ）人
- (エ) 園児全員に対して（約 ）人

② 絵本を使用する場合一度に対象とする子どもは、どの範囲ですか。次の(ア)～(エ)のうち該当するものを多い順にご記入下さい。（ ）

またカッコ内にはおおよその人数もご記入下さい。

- (ア) クラス全員で（約 ）人
- (イ) 興味のある子を対象に
- (ウ) 学年全体で（約 ）人
- (エ) 園児全員に対して（約 ）人

5. 紙芝居を演じる際に気をつけることについて、以下の問いにお答え下さい。

① あなたは紙芝居を演じる際、舞台を使用しますか。下の㉔～㉖のうち該当するものに○印をお付け下さい。

- ㉔いつも使用する ㉕時々使用する ㉖ほとんど使用しない ㉗使用しない

② 紙芝居を演じる時注意することはありますか。下の(ア)～(エ)のうち該当するものに○印をお付け下さい。

- (ア) 声の出し方
- (イ) 抜き方
- (ウ) 下読み
- (エ) その他（ ）

6. 貴園における紙芝居と絵本の購入について、以下の問いにお答え下さい。

① 貴園に紙芝居は何冊（約 ）冊、絵本は（約 ）冊ありますか。

② 貴園では紙芝居をどのくらい購入しますか。

イ) 毎月、紙芝居（約 ）冊、絵本（約 ）冊

ロ) 毎年、紙芝居（約 ）冊、絵本（約 ）冊

ハ) 紙芝居、購入しない。

ニ) 絵本、購入しない。

③ 貴園では紙芝居、絵本の購入は、予算化していますか。下の該当するものに○印をお付け下さい。

- ㉔紙芝居予算化 ㉕紙芝居予算化していない ㉖絵本予算化 ㉗絵本予算化していない

④ 貴園では紙芝居の購入に関して、選定は誰がしますか。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

The Use of “Kamishibai” in Kindergartens and Nursery schools

Bingushi, Kumiko*

Nozaki, Makoto*

本調査研究は、保育現場における紙芝居の活用状況の実態を把握することを目的として行った。保育の場における、紙芝居活用の事実をありのままに調査分析することが、紙芝居の特性を生かしたよりよい活用を考察していくため、すなわち、紙芝居の教材・教具としての意義を検討するための第一段階として必要であり、有効な方法と考えたからである。

予測通り、紙芝居が現在ほとんどの幼稚園及び保育所で活用されていること、絵本との比較では、概して紙芝居より絵本の方が活用頻度は高いことが明らかとなった。またそのことが両者の保有数や購入数、予算化の有無の違いに関係していると考えられる。

紙芝居の舞台の活用が少ないことや、紙芝居を演じるにあたって注意していることの調査からは、紙芝居の特性を十分捉えた活用になっていないのではないかという結論に至った。保育の場において紙芝居を教材・教具として、よりよく活用するためには、現任の保育者に対して紙芝居の特性を認識するための機会、また有効な活用方法、演じるだけでなく、作る、遊ぶなどについてトレーニングする機会を設ける必要があると考える。

キーワード：紙芝居 (Kamishibai), 活用 (use), 幼稚園 (kindergarten), 保育所 (nursery school)